

施工業者様用

〈施工説明書〉

フィレット施工対応手すり部材

フィレット対応手すり: CL型・SL型・MD型

※アルミ子柱ユニットは専用の施工説明書をご覧ください。

このたびはウッドワンの商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。

施工前にこの施工説明書をよくお読みいただき、安全に正しく施工されるようお願い致します。

製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害・財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」をよくお読みください。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

安全上のご注意 安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください



注意

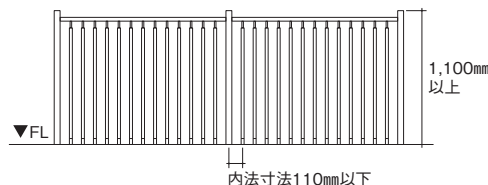
施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実に守ってください。



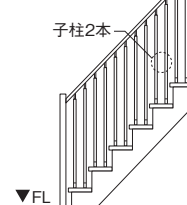
禁止

- ・躯体の強度を確保してください。
階段が取り付け位置には、十分な強度のある柱・間柱・胴縁や梁・大引などの下地があることを確認してください。
- ・子柱は、子供がすり抜けないように踏板上で使用する場合は2本、2階ホール等に使用する場合は内法110mm以下で取り付けてください。
- ・2階ホールの手すりの高さは1,100mm以上としてください。
- ・指定の固定方法で取り付けてください。
- ・指定の下穴をあけてご使用ください。
- ・取り付け後にガタツキ、緩み、ビスの締め忘れがないか確認してください。
- ・万が一ガタツキ、ヒビなどの不具合を発見した場合は、直ちに使用をやめて取付業者または販売店にご連絡ください。

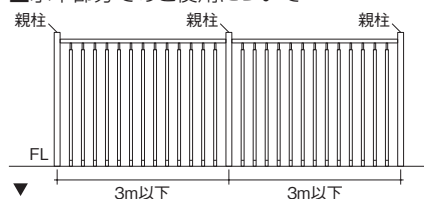
■2階ホールなど



■階段部分



■水平部分でのご使用について



- ・水平部分での取り付けは手すりの両端を壁面か親柱にて強固に固定してください。
- ・手すりを水平部分に使用するときは3m以下おきに必ず親柱を取り付けてください。



必ずおこなう

- ・屋外や、浴室などの湿度が高い場所にはご使用できません。
- ・開梱後は換気を行ってください。本製品は、ホルムアルデヒド・VOC(揮発性有機化合物)対策品ですが、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすいため、換気を行うようにしてください。
- ・階段の勾配が45°を超える場合は、手すりを両側に取り付けてください。
- ・階段部分の手すりは踏面から750~800mmの高さに取り付けてください。
- ・手すりは連続して取り付けてください。
- ・手すり端部はぶついたりひっかけたりしないように配慮してください。
- ・アプローチ部分にも手すりを付けてください。
- ・手すりの接続、手すり親柱・子柱との接続、手すり親柱・子柱の躯体側との接続はポリウレタン系接着剤(別売)等を使用し強固に取付けてください。

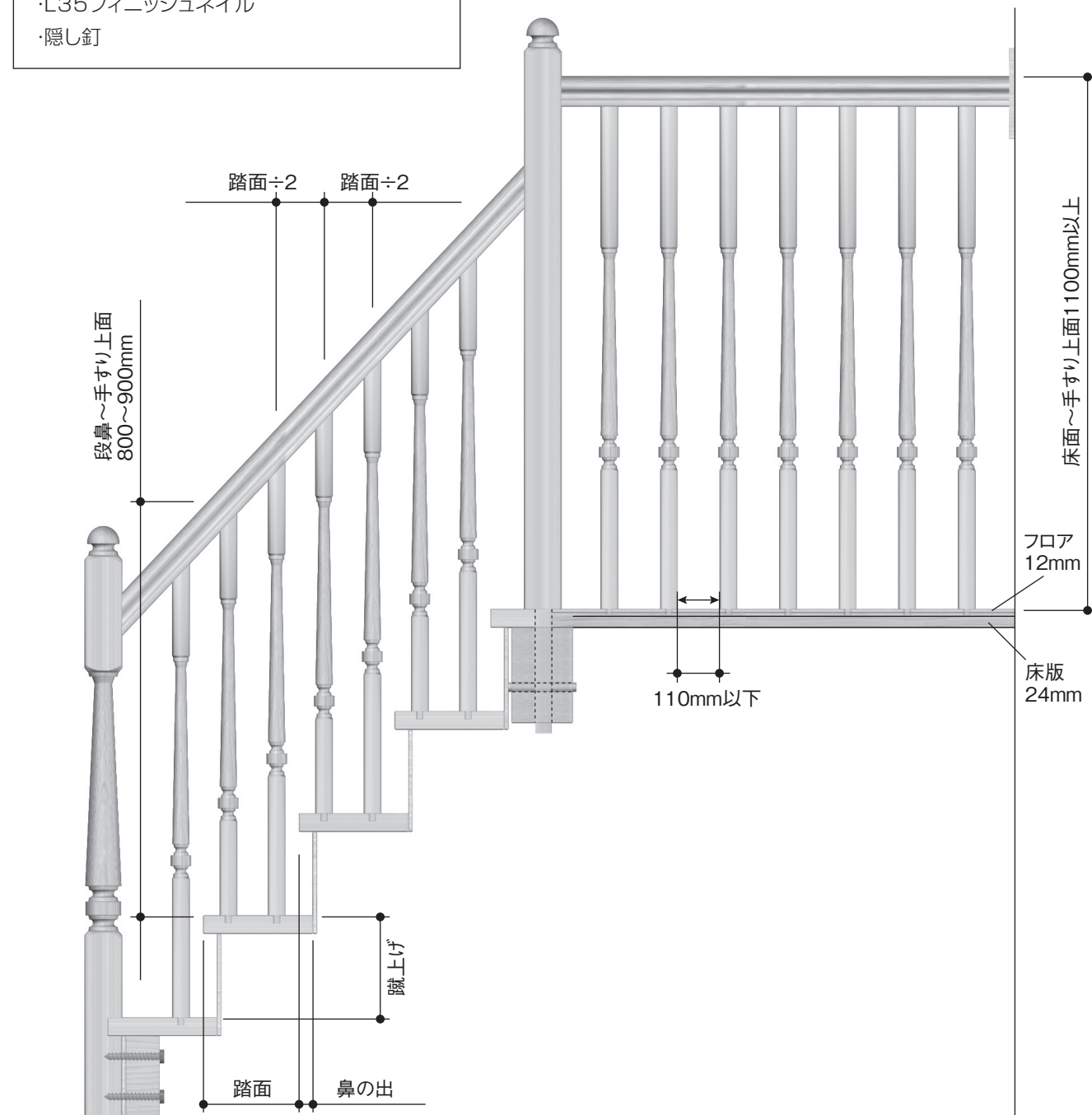
お願い

- ・下穴はネジ径の80~85%を目安としてください。
- ・別売の接着剤(ポリウレタン系接着剤)を少量充填しておくことも緩み止めに効果があります。

1. 施工前の準備と確認

- 床下に親柱をしっかりと固定できる大引・土台など補強用の下地があることをご確認ください。
- 水平部分の手すりの設置高さは1,100mm以上にして下さい。
- 子柱の設置間隔は子柱の内法寸法110mm以下として下さい。
- 施工の際には一般的な大工道具とともに、次のような大工道具が必要となります。
事前の準備をお願い致します。

・φ12木工ドリル（子柱ダボ穴加工用）
・ルーター・ノミ等（ほぞ加工用）
・コーチボルト（下地寸法で選定下さい。）
・L35フィニッシュネイル
・隠し釘



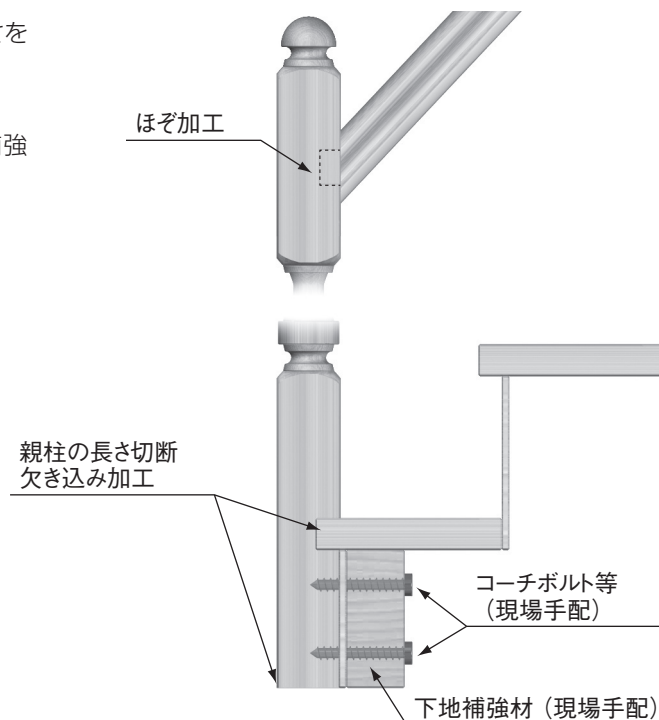
2. 施工方法

■親柱の施工

- 親柱の取付け位置を決めて、手すりの設置高さから親柱の長さを決めて下さい。
- 親柱の長さカットと踏板部分の親柱欠き込み加工を施します。
- 階段蹴込板の裏側に下地補強材（現場手配）を施工し、下地補強材側から親柱をコーチボルト（現場手配）で固定します。

⚠ 注意

コーチボルト、ビス固定の際は必ず先穴をあけ部材の割れが無いようにご注意ください。

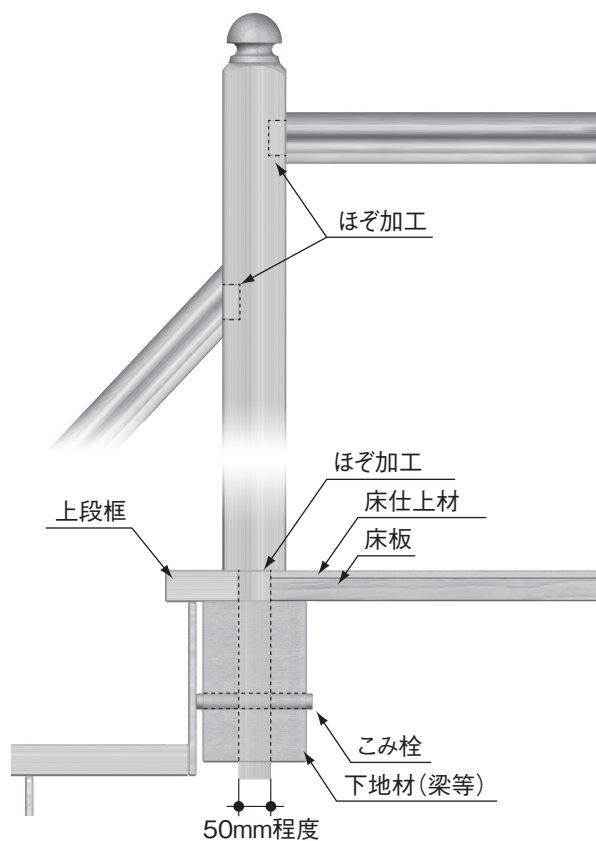
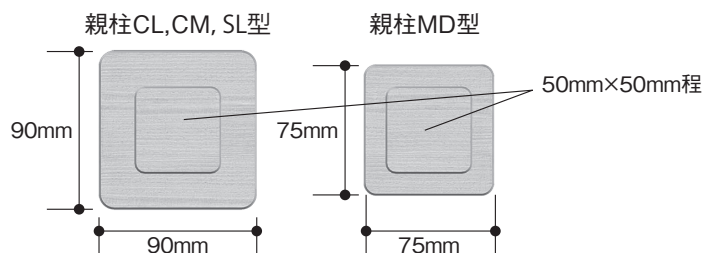


■親柱の施工（吹抜け部分）

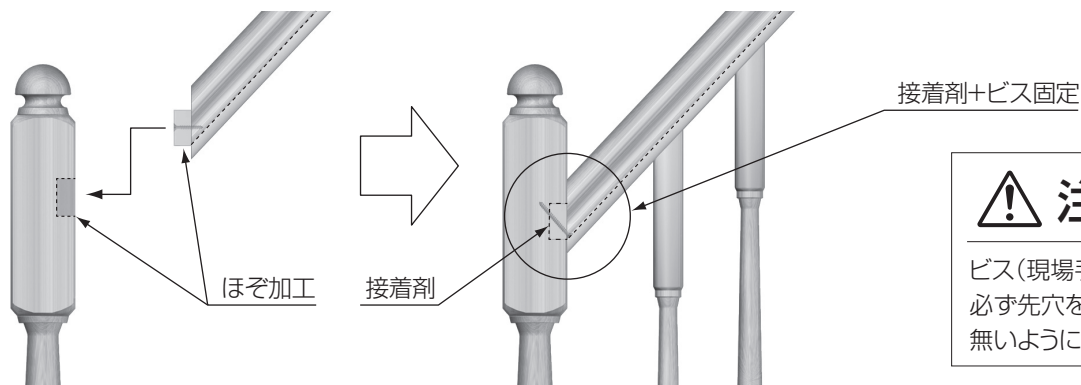
- 親柱の取付け位置を決めて、手すりの設置高さから親柱の長さを決めて下さい。
- 親柱の長さカットと親柱下端部にほぞ加工、親柱取付け位置の床躯体部分にほぞ穴加工及びこみ栓加工を施します。

⚠ 注意

親柱の固定は、手すりとの仮組み、子柱の長さ寸法の認完了後に行ってください。
固定方法は、親柱をほぞ穴へ差込み、こみ栓で固定をします。



■親柱と手すりの施工【勾配部】（下段部分）

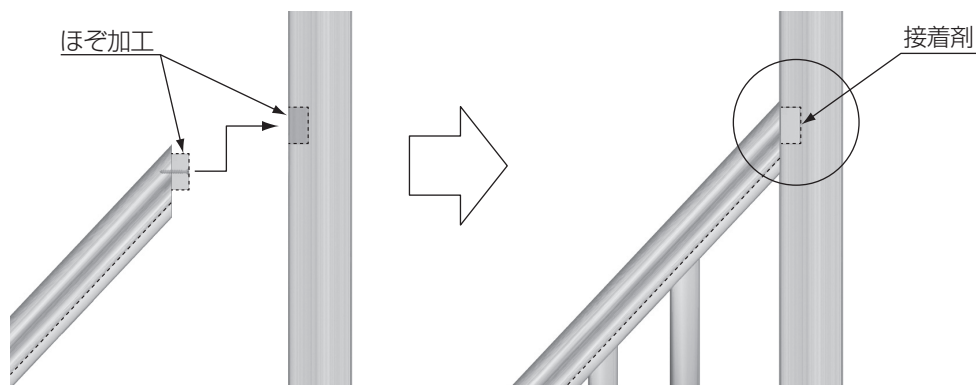


⚠ 注意

ビス（現場手配）固定の際は必ず先穴をあけ部材の割れが無いようにご注意ください。

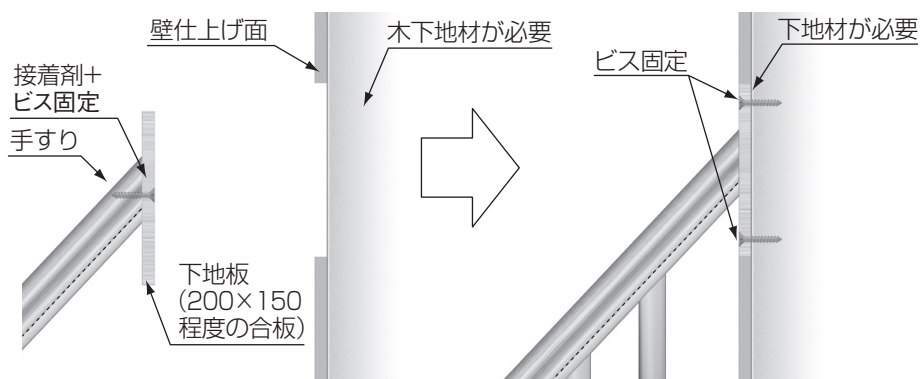
- 親柱の位置、階段の勾配、手すりの設置高さや手すり断面寸法を考慮したほぞ寸法を確認し、手すりのほぞ加工（付けほぞ加工）及び長さカットと親柱側へほぞ穴加工をしてください。親柱に接地する角度に合わせて手すりをカット。
- 手すり固定の前にほぞ加工の確認、子柱の長さ寸法の確認のため仮組みをしてください。
- 固定方法は、手すりほぞ加工（付けほぞ）部分に接着剤（ポリウレタン系接着剤別売）を塗布し、親柱側のほぞ穴に差込みます。
- 手すり裏面のフィレット溝から親柱側へビス（現場手配）固定をしてください。

■手すりと親柱の施工【勾配部】（上段部分）



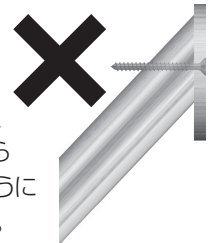
- 親柱の位置、階段の勾配、手すりの設置高さや手すり断面寸法を考慮したほぞ寸法を確認し、手すりのほぞ加工（付けほぞ加工）及び長さカットと親柱側へほぞ穴加工をしてください。親柱に接地する角度に合わせて手すりをカット。
- 手すり固定の前にほぞ加工の確認、子柱の長さ寸法の確認のため仮組みをしてください。
- 固定方法は、手すりほぞ加工（付けほぞ）部分に接着剤（ポリウレタン系接着剤別売）を塗布し、親柱側のほぞ穴に差込みます。

■手すりと壁面の施工【勾配部】



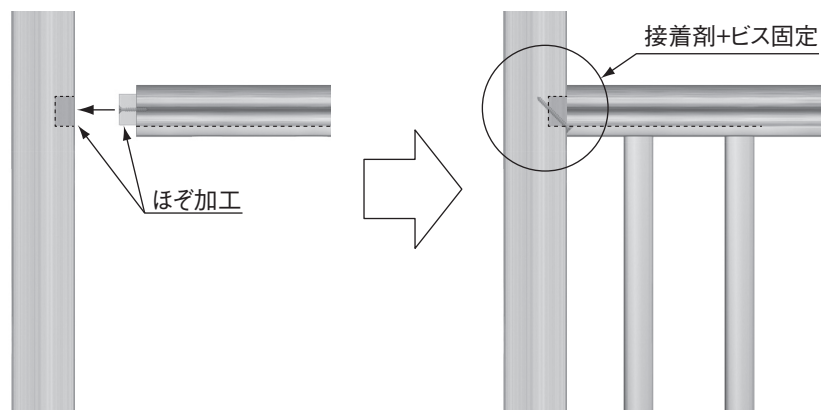
⚠ 注意

手すりにロゼット、下地板を固定する際には、ビスが手すりから飛び出さないように注意して下さい。



- 親柱の位置、階段の勾配、手すりの設置高さや壁への接地位置を考慮した上で手すりのカットを行ってください。壁に接地する角度に合わせて手すりをカット。
- 手すり端部と壁面を連結する壁部分に事前に木下地（厚み12mm以上の合板か同等以上の木下地）が入っていることを確認します。
- 200mm×150mm程度の下地板（石膏ボードと同じ厚みのもの）を用意し、接着剤（ポリウレタン系接着剤別売）とビス（現地調達）を併用し手すりに固定してください。
- 子柱の長さ寸法確認を行い、手すりを設置位置に合わせて下地板裏面に接着剤（ポリウレタン系接着剤別売）を塗布し、下地板から木下地材に向けてビス（現地調達）固定をします。
- アルミ子柱階段ユニットが吹抜・天井ユニットと接続されず壁面で納まる場合も、手すり端部と壁面の固定を行ってください。

■親柱と手すりの施工【水平部】

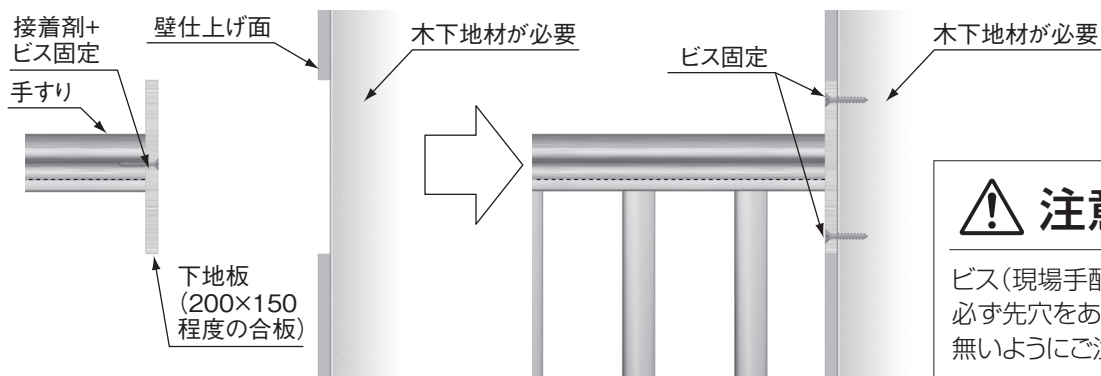


⚠ 注意

ビス(現場手配)固定の際は必ず先穴をあけ部材の割れが無いようにご注意ください。

- 親柱の位置、手すりの設置高さ、手すりの長さを考慮した上で手すりのカットを行ってください。
- 親柱にほぞ穴加工、手すりにほぞ加工(付けほぞ)をしてください。
- ほぞ穴部分に接着剤(ポリウレタン系接着剤別売)を塗布し、親柱と手すりを接着させ、フィレット溝部分からビス固定してください。

■手すりと壁面の施工【水平部】

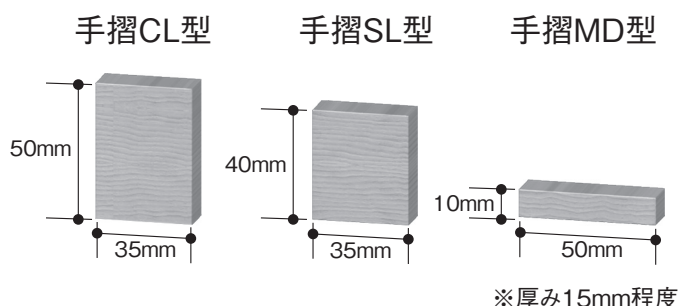


⚠ 注意

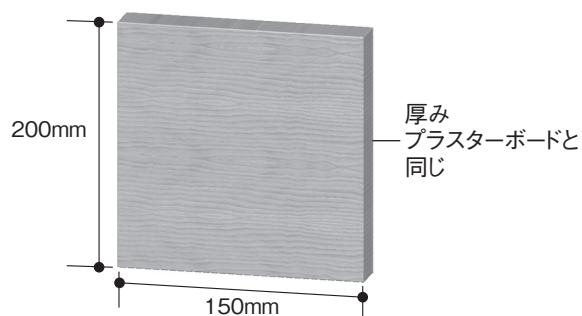
ビス(現場手配)固定の際は必ず先穴をあけ部材の割れが無いようにご注意ください。

- 親柱の位置、手すりの設置高さ、手すりの長さを考慮した上で手すりのカットを行ってください。
- 手すりと壁面を連結する壁部分に事前に木下地(厚み12mm以上の合板か同等以上の木下地)が入っていることを確認します。
- 長さカットが完了した手すりに、200mm×150mm程度の下地板(石膏ボードと同じ厚みのもの)を接着剤(ポリウレタン系接着剤別売)とビス(現地調達)を併用し手すりに固定してください。
- 子柱の長さ寸法確認を行い、手すりを設置位置に合わせて下地板裏面に接着剤(ポリウレタン系接着剤別売)を塗布し、下地板から木下地材に向けてビス(現地調達)固定をします。
- アルミ子柱吹抜ユニットを壁固定パーツを使用し納める場合、合わせて手すり端部と壁面の固定を行ってください。

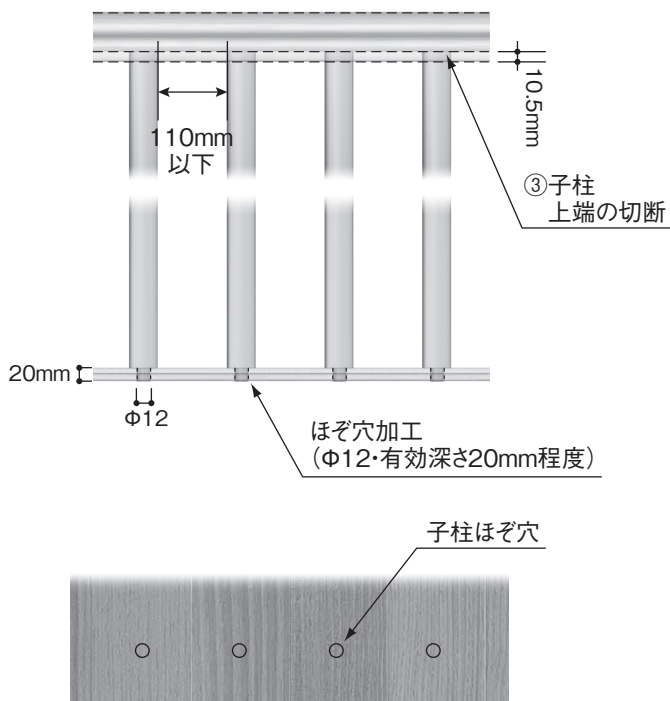
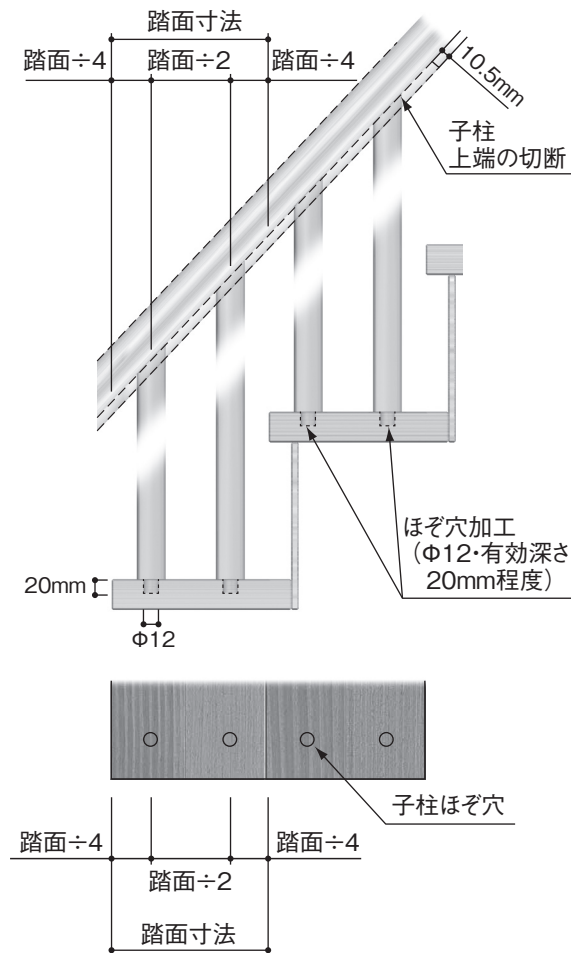
■ほぞの大きさ(目安)



■下地板の大きさ(目安)



■ 子柱の施工



子柱下端部

- 踏板及び床面(吹抜け等の水平部)に子柱の取付け位置を墨付けします。
- 子柱にはダボ(80×φ12)が同梱されており、子柱下端部にはダボ穴が開けてありますので、踏板及び床面(吹抜け等の水平部)にダボ穴加工(踏板、笠木ボードともにダボ穴のプレカット加工も対応しています。)を現場加工して子柱を取付けます。
- ダボ穴はφ12、深さ20~40mmで部材の厚みを考慮しダボ穴加工をします。
- ダボ穴加工された踏板、笠木ボードに付属のダボで子柱を施工の際は、ダボに接着剤(ポリウレタン系接着剤別売)を塗布して子柱へ差し込み、笠木ボードへも同様にダボに接着材(ポリウレタン系接着剤別売)を塗布して差し込み固定してください。

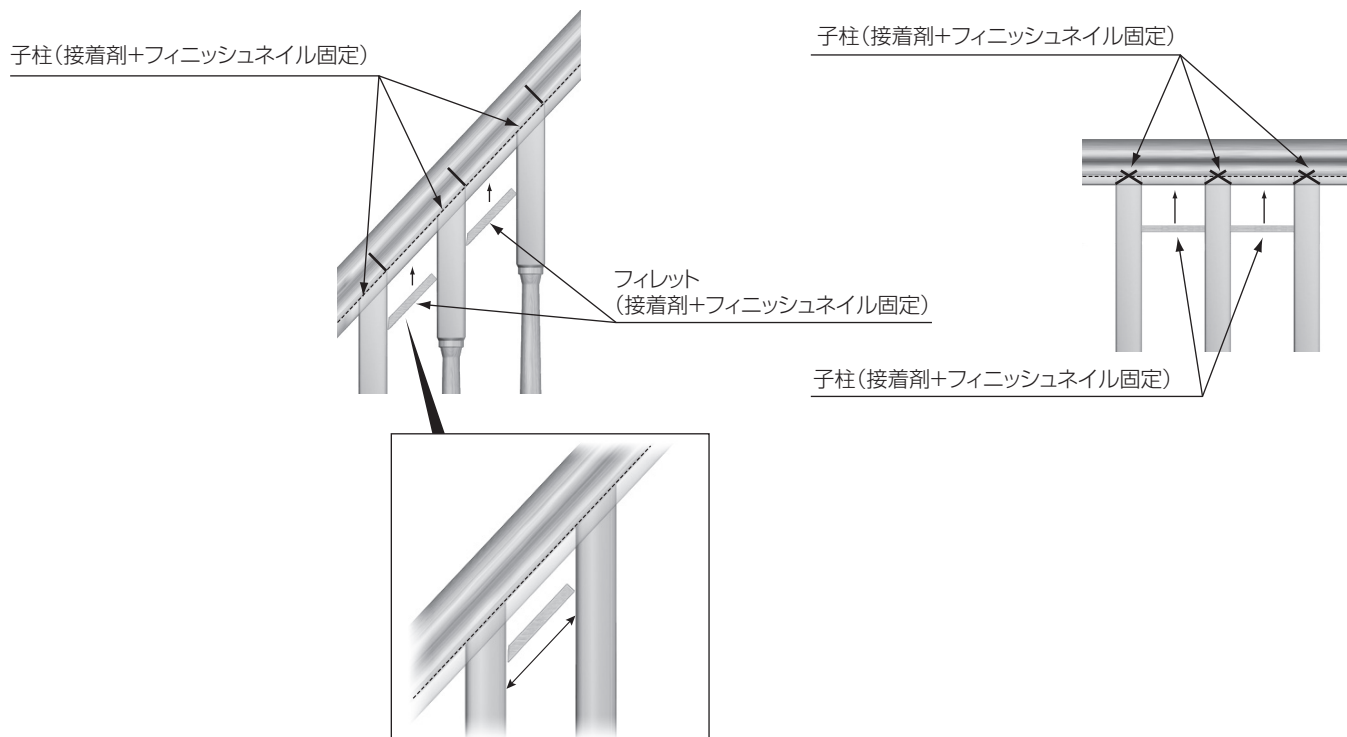
⚠ 注意

フィレット式ボードの場合は、ダボを必要としません。
フィレット溝の深さ(10.5mm)を加味して子柱を長さカットし、子柱断面に接着材(ポリウレタン系接着剤別売)を塗布した後、取付け位置に設置しフィレットで隠れる部分にフィニッシュネイル等を使い固定して下さい。

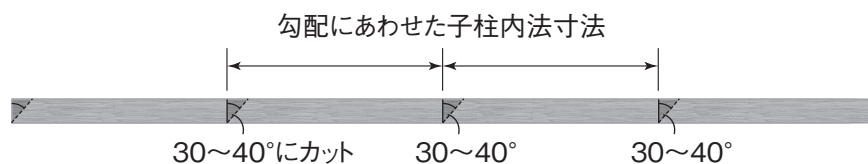
子柱上端部

- 手すりの設置高さや勾配を考慮し、子柱の向きを確認後長さカット及び角度カットをして下さい。
- 手すり側のフィレット溝の深さ(10.5mm)を考慮してカットして下さい。
- 子柱の固定は、子柱の断面に接着材(ポリウレタン系接着剤別売)を塗布し手すりのフィレット溝へ差し込み取付け位置に設置します。
- フィレットで隠れる部分にフィニッシュネイルを使い固定してください。

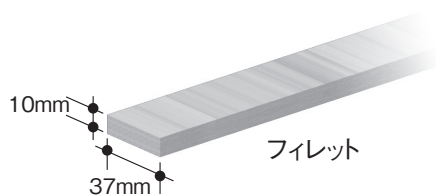
■ フィレットの施工



ワンポイント アドバイス



勾配部分フィレットを取り付ける際上記のよう
カットするときれいにはめこめます。



- 階段部分の手すりに使用する場合はフィレットの端部も勾配に合わせた角度カットを行い、隙間無くフィレットが施工できるようにして下さい。
- フィレットの固定方法はフィレットの裏面に接着材を塗布しフィニッシュネイル等を併用して、手すりフィレット溝へフィレットを固定します。
- 手すりMD型のスタート・エンドパーツやボーダー（フィレット式）をご使用の場合も、同様の取付けを行ってください。
- 手すり同士の間隔を採寸し、フィレットのカットを行います。

